

(1)保存地区の概要	(2)保存地区のあゆみ
<p>地区名 高岡市山町筋</p>	<p>昭和60年度(1985) 町並み保存対策調査の実施、報告書の刊行</p>
<p>種別 商家町</p>	<p>平成4年度(1992) 「土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会」の設立</p>
<p>面積 約5.5ヘクタール</p>	<p>平成6年度(1994) 「菅野家住宅」重要文化財指定</p>
<p>選定年月日 平成12年12月4日</p>	<p>平成10年度(1998) 「高岡市町並み保存・都市景観形成に関する条例及び規則」の施行</p>
<p>特徴 山町筋は前田利長公が高岡開町に際し、旧北陸道沿いに商人町を造ったことが始まりで、高岡は江戸時代から明治時代にかけて物資集散の拠点として発展し、中でも山町は商業活動の中心であった。明治33年の大火の復興にあたり、当時の「建築制限規則」に基づき防火構造の土蔵造り主屋が建てられた。歴史的な景観を作り出す土蔵造りの町並みは、明治期の都市防災計画の記念碑といえる。土蔵造りの主屋は、二階建て、切妻造平入で、棧瓦葺を基本とし、下屋を本瓦葺きとするものもある。また、煉瓦造の防火壁を持つものがあり、類焼から守る工夫がされている。一階開口部は格子とするものが多く、二階窓は観音開の土戸とするものがある。一階下屋柱の柱頭や天井、窓枠、持ち送り等に洋風意匠が取り入れられるものもあり、当時の大商人の美意識と進取の気概を感じさせる。</p>	<p>平成12年度(2000) 伝統的建造物群保存地区、都市計画決定『重要伝統的建造物群保存地区』選定(12月)</p>
	<p>平成13年度(2001) 修理・修景事業開始</p>
	<p>平成15年度(2003) 土蔵造りのまち資料館オープン</p>
	<p>平成19年度(2007) 第29回全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会を高岡市で開催</p>
	<p>平成20年度(2008) 無電柱化・道路整備事業 ～23年度(2011)</p>
	<p>平成27年度(2015) 高岡御車山会館オープン(4月)</p>
	<p>平成28年度(2016) 第68回全国植樹祭に合わせ、天皇皇后両陛下の行幸啓(高岡御車山会館のご視察)</p>



(3) 保存地区の保存と整備

◆修理・修景、関連事業◆

平成13年度 修理6件、修景1件
 平成14年度 修理5件、修景2件
 (防災施設を含む)
 平成15年度 修理5件
 平成16年度 修理4件
 平成17年度 修理3件、修景1件
 平成18年度 修理5件
 平成19年度 修理3件、修景1件
 平成20年度 修理2件、修景2件
 平成21年度 修理1件、修景1件
 平成22年度 修理2件、修景1件
 平成23年度 修理1件

平成24年度 修理3件
 平成25年度 修理3件
 平成26年度 修理2件
 平成27年度 修理2件、修景1件
 平成28年度 修理3件
 平成29年度 修理5件
 平成30年度 修理1件
 令和元年度 修理2件
 令和2年度 修理4件
 令和3年度 修理2件
 令和4年度 修理1件

◆修理事業◆



[修理前]



[修理後]



◆防災事業◆

保存地区内の銀行が、店舗移転に伴い解体され、更地となることを、市が土地取得、防災施設の整備を行った。



(銀行店舗)



(店舗解体・更地)



(防災施設・広場)



(防災施設)

防災施設(1階:格納庫、2階:備蓄庫)を新築修景し、山町筋自衛消防隊の活動拠点として使用、平時は観光客のための休憩施設、トイレとしても開放しており、防災広場の整備も合わせて行った。

◆高岡御車山会館整備事業◆

重要有形・無形民俗文化財に指定されている「高岡御車山」を展示する会館を整備した。(平成28年12月ユネスコ無形文化遺産に登録)



[整備前]



[整備後]

(4) 保存地区の活用とまちづくり

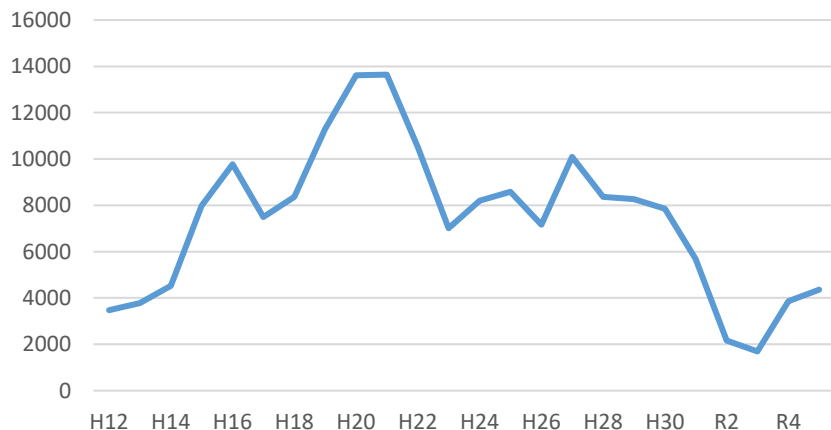
◆保存地区内でのイベント等◆

毎年8月に開催されている「高岡山町筋土蔵造りフェスタ」の様子。保存地区内の伝統的建造物や道路・歩道・観光駐車場などを利用しながら、ライブやダンス、



軒下マルシェ、プロジェクトンマッピング等を催している。
1月には「山町筋の天神様祭」3月には「山町筋のひなまつり」も開催している。

◆保存地区内の資料館等の入館者数◆



(5) 住民等の取り組み

◆土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会◆

協議会を設立後、伝建地区を構成する4町内会の意識を統一したイベントが必要と考え、商工会議所の共催による「土蔵造りフェスタ」を伝建地区都市計画決定前から開催しており、重伝建選定後は「山町筋のひなまつり」、「山町筋の天神様祭」も加えて開催している。この3つのイベント日数は各々2日間ではあるが、毎年行うことで地区内に定着化し、マスコミ等の報道もあり、市内はもとより、県内にも広く知られることとなった。



今まで、暗い・寒いといった土蔵造りの家が重伝建選定後の修理・修景事業の進捗により、町並みがきれいになった。また、空き家には新しくカフェや雑貨等の店舗が入居し、活性化に寄与している。

重伝建選定後、日本遺産の認定、高岡御車山祭の御車山行事がユネスコ無形文化遺産に登録と、フォローの風が吹いており、この期に乗じて、次の世代にバトンタッチしていきたいと思っている。
(協議会元事務局長 70代男性)